

ジェンダー主流化は政府や民間の幅広い分野で推進するべき取組とされており、国土交通省の所管分野においても多様な課題が存在。

- 「ジェンダー主流化を推進し、政府機関、民間企業や若者を含めた市民社会など全てのステークホルダーが連携して一層の取組を進めていく必要がある。」（第6次男女共同参画基本計画、R8/3/13閣議決定）

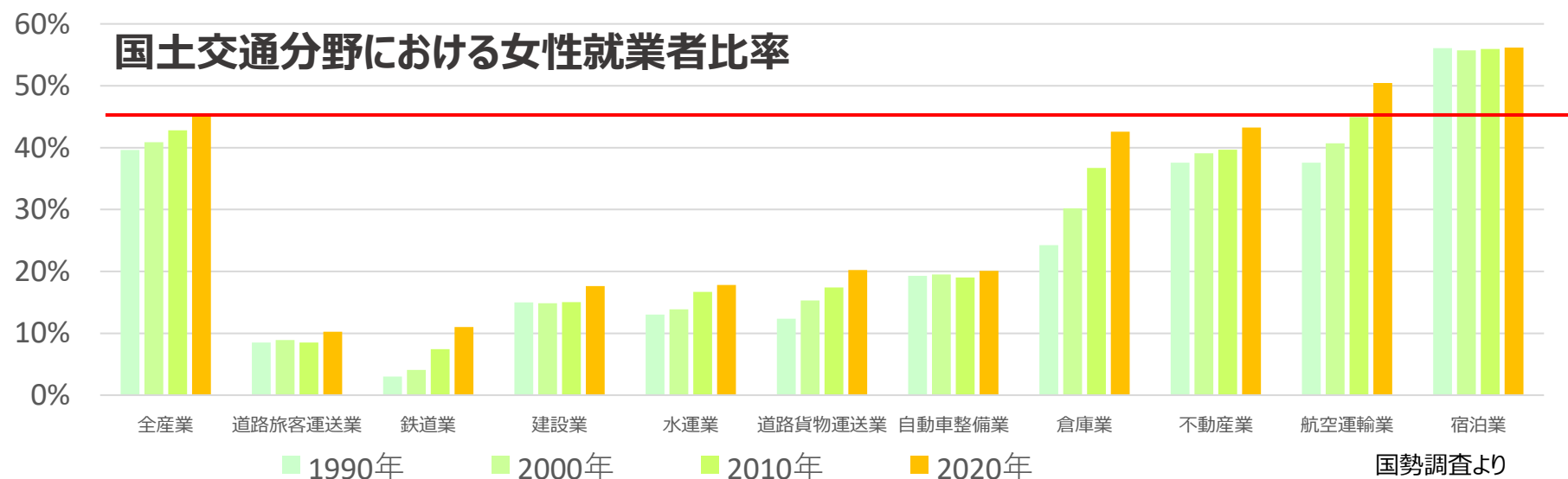
利用者の視点

性別による違いが見落とされると、一部の人に使いにくさが生じる。

- 車の衝突試験では、男性の体を基準とするダミー人形が使用されていた。
（日本では、2024年度から運転席に女性のダミー人形を導入済）
- 暗いバス停などは、利用に際して特に女性は不安を感じやすい。
- 駅などにおいて女性トイレの行列が長い。

担い手の視点

国土交通分野の女性就業者比率は上昇傾向にあるが、低水準な産業も多い。



- 暮らしや社会との関わりが深い国土交通分野で「ジェンダー主流化」を進めることで、**すべての人々が暮らしやすい社会の実現**が可能になる。

(背景)

- 男女で生活スタイルや行動パターン、安全に対する感じ方が異なる中、国土交通分野における交通やまちづくりにおいては、多様なニーズに応えることが求められており、すべての人々が暮らしやすい社会の実現には、**性別による違いを政策やサービスに反映**することが不可欠である。
- 地方創生を進めるなかで「**若者・女性にも選ばれる地方**」の実現には、若者や女性の視点をふまえた働き方や移動・生活環境の整備が不可欠であり、政策や事業へのジェンダーの視点の組み込みが重要である。
- 国際社会では、SDGsを契機に、**すべての政策・事業にジェンダーの視点を組み込む「ジェンダー主流化」**が重要視されている。
- 日本ではジェンダーの視点の浸透が十分でなく、その結果として、**ジェンダー・ギャップ指数も国際的に低い水準**にとどまっている。

(取組)

- 国土交通分野において、**政策・事業のあらゆる段階にジェンダーの視点を組み込む取組**を推進する。
- 職員がジェンダー平等の重要性を理解し、**男女別データや利用実態に基づき、政策や事業の立案・実施・評価**を行う。
- 関連する分野において、事業者の従業員や意思決定層の**女性比率向上を促進し、多様な視点が反映**される環境づくりを進める。
- 業種や地域を越えて、ジェンダー主流化に関する**好事例や知見の共有・横展開**を図る。

(効果)

- 男性・女性に限らず、こども、高齢者、障害者など、**すべての人々が暮らしやすい社会を実現**する。

● ジェンダー主流化を推進していく上で、構造的な阻害要因となりうるもの

*e.g.

- ・ 技術系 = 男性、事務系 = 女性という固定観念
- ・ 移動は通勤中心と考え、複雑な生活移動を見落とす
- ・ 「典型的家族」を前提に政策設計を行う
- ・ 夜間の不安や危険を過小評価しやすい
(男性は危険認知が低い傾向)
- ・ 男女別データを取らず平均値で判断
- ・ 男性中心の会議になりがちで、意見が偏りやすい

・ 家事・育児負担の不均衡

- ・ 性別による雇用形態の差
- ・ 起業・投資対象における男女格差
- ・ 経済社会活動における人的ネットワークへのアクセスの男女格差
- ・ 両性による利用、男女特有のニーズを想定してこなかった既存設備やインフラ
- ・ ジェンダーにより異なる犯罪リスク

意識・文化的要因

- ・ 無意識の偏見（アンコンシャスバイアス*）
 - 性別による固定観念（ジェンダーステレオタイプ）や、ステレオタイプに基づく偏見や差別（ジェンダーバイアス）
- ・ マジョリティの特権の認知不足
- ・ 根強い性別役割分担意識
- ・ 現状課題やジェンダー主流化に対する理解不足

経済・資源的要因

制度・政策的要因

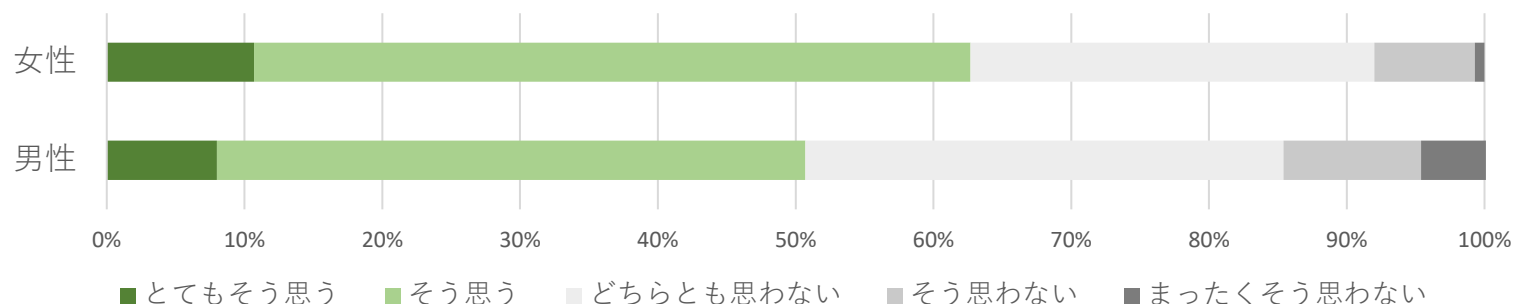
- ・ 意思決定者におけるジェンダーバランスの欠如
- ・ 意思決定者のジェンダー平等化に対するコミットメントの欠如
- ・ 男女別データ不足
- ・ ジェンダー専門家人材不足

調査事例：バス停の照明に関する社会実験を実施（R8.2）

- 本部設置に先立って実施した国土交通省「若手・中堅女性職員による懇談会」で寄せられた意見では、暗いバス停での不安等が挙げられた。
- 国内外の事例を踏まえ、ジェンダー主流化の観点の改善例として、バス停に照明を設置した際の利用者の安心感への影響を検証する社会実験を行った（東京都大田区）。

事前のWEBアンケート（n：男女150名ずつ）

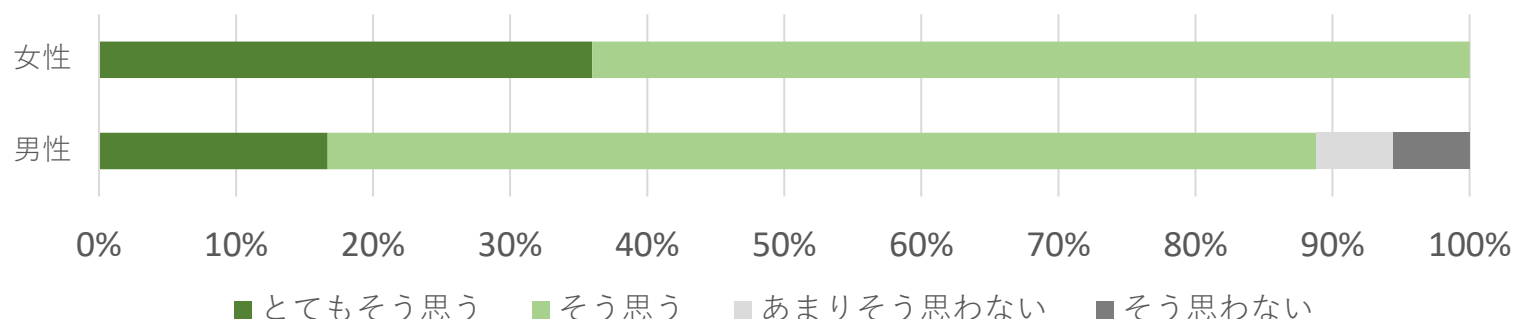
Q.バス停に照明が設置・強化されれば、夜間の安心感が高まると思いませんか。



実験期間中の現地アンケート（n：男性28名、女性34名）

（期間限定（2週間）で照明を設置し、そのうち平日3日間でアンケートを収集）

Q.照明設置で安心感が高まったと感じますか。



照明を設置したバス停の様子

I. はじめに

- ・ジェンダー主流化の定義
- ・行動方針の作成趣旨 等

II. 国土交通省におけるジェンダー主流化の意義

- ・利用者の視点からの意義
- ・担い手の視点からの意義
- ・社会・経済等の視点からの意義

III. 国土交通省のジェンダー主流化に係る取組

- ・推進体制
- ・これまでの取組
- ・今後の取組

方針案を作成後、事前に共有させていただきます。
※方針は、6月下旬に決定予定です。